

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1472500477
法人名	医療法人社団柏信会
事業所名	グループホーム「櫻」
訪問調査日	平成26年1月15日
評価確定日	平成26年2月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 25 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472500477	事業の開始年月日	平成17年5月1日	
		指定年月日	平成17年5月1日	
法人名	医療法人社団柏信会			
事業所名	グループホーム「櫻」			
所在地	(249-0005) 神奈川県逗子市桜山6丁目1326番地			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="radio"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成25年11月10日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月24日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の一角で緑豊かな環境で四季の変化が身近に感じられる。同敷地内に隣接する法人経営の病院及び老健施設と連携、近隣の歯科医院とも契約、利用者の健康管理、緊急時の対応等が容易で安心感を持てる。また、医療連携体制を病院と契約し看護師の派遣を得て日々の健康管理が行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成26年1月15日	評価機関 評価決定日	平成26年2月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>■このホームは、JR逗子駅からバスで4つ目で、逗子駅から比較的近く、葉桜団地へ向う丘の中腹にあり、緑が豊かで、四季の変化が身近に感じられる環境のところに位置しています。理事長は医療・介護に通じた経営者です。同一敷地内に青木病院、通所リハビリセンター、居宅介護支援センター、介護老人保健施設「グリーンハウス逗子」を運営し、介護も看護も充実した“地域”を形成しています。利用者・ご家族は「病院・老健が同じ敷地内にあって安心」との声を頂いています。通所リハビリ、老健「グリーンハウス逗子」及び居宅介護支援センターなどのルートから、気軽にグループホーム入所にアプローチ出来る体制も備わっています。また、隣が関連の青木病院で、医療に関するサポートを常に受けられる体制にあり、看護部長による週2回の巡回や、ナースセンター24時間オンコール、食材の共同仕入れと栄養士による指導など、他に見られない協力を得ています。■理念は、「その人らしさと地域のつながりを大切に、もてる力を発揮しながら安心して日々の生活が送れるよう、笑顔でお手伝いさせていただきます。」であり、理事長の毎月の12か月の標語の中に必ず入っている言葉が『笑顔』であり、接遇の基本に自分を置くように、との言葉を玄関に掲示しています。この理念は、全職員の募集からみんなで考え作ったものであり、その内容は良く理解され、実践されています。■理事長が時折、ホーム1階、2階で月に1～2度ほどミニ研修会を開催しています。1階のスタッフが2階に、反対に2階のスタッフが1階に入れ替わり、スタッフ全員がご利用者を把握できる機会を持っています。機会によりご利用者から、「元気だったの、如何していたの心配していたのよ」の言葉に、スタッフが励まされています。■地域との関係では、葉桜自治会に加入しています。葉桜自治会は、逗子市、葉山町に跨る自治会で、事業所自体としては自治会役員会への参加、役員との交流を進めています。自治会役員会を通じる他、主な公的施設にパンフレットを配り、広報に努めています。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム「櫻」
ユニット名	A・Bユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員自ら作成した理念の文言に親しみを感じながら、見やすい場所に掲示し日々実践に努めている。地域住民との交流は運営推進会議等を通じ其の実現を図っている。	理念の他に、事務長が毎月の言葉を作成して「<八月の言葉・暑い夏節電コールは高けれど笑顔節約すななかれ 爽やかな笑顔で涼む 櫻 かな>自己反省の言葉として日々の業務に生かし接遇の基本に自身を導いてください」と、このような憂いを含んだ啓蒙の言葉が毎月、理念と一緒に1・2階共リビングに掲示しています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の立地条件、利用者の状態から難しい状況にあるが、可能な限り参加型の交流に努めている。（主に文化祭や近隣のお祭り、盆踊りであるが法人施設間の交流も頻繁に行っている。）事業所自体としては、自治会役員会、社協主催のランチミーティング等に参加、交流を図っている。	葉桜自治会に法人として参加しています。高齢化が進み情報交換が主になっています。以前には施設見学等を行っていました。可能な限り参加型の交流を図っています。ボランティアでは、合奏、ギター、和太鼓等の来所披露があります。市の催し物等に参加したり、見学に行ったりしています。今年もヘルパー講習の実習を受け入れています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の結果をホームページで公開するほか逗子ネットの企画に参加し情報提供に努めている。 また、運営推進会議を通じ町内の方への認知症に対する講演会を呼びかけている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価及び外部評価の結果ならびに利用者の現況、運営状況等は議案として取り上げ、貴重な意見は可能な限り取り上げサービスの向上に努めている。	葉桜自治会副会長、民生委員、逗子市介護保険課長、地域包括支援センター、家族代表、柏信会理事長、青木病院看護部長、ホーム管理者・事務長で実施し、現状報告、活動報告の他、防災などについて話し合っています。頂いた貴重な意見は業務に反映しています。現在、運営推進会議は3ヵ月に1回実施しています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務上、必要の都度往来し、市担当者と相談しながらサービスの向上を図っている。運営推進会議には市の担当課長が委員として運営に参加している。	市の担当者と相談しながらサービスの向上に努めています。運営推進会議には市の担当課長が委員として運営に参加して頂いています。また、社会福祉協議会、グループホーム協議会より研修会のお知らせを頂き参加しています。地域の高齢化に伴い、年2回の消防避難訓練や他の自治会が災害になった場合、お互いの助け合いが難しくなってきた状況に、課題としています。ホームでは、生活保護の方の受け入れはしていません。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の立地条件及び安全対策の観点から玄関の開放は難しい状況にあるが、可能な限り努力はしている。職員全員に対し拘束についての教育を実施、正しい理解に基づく実践に努めている。前兆を察、その知した場合は其の都度個々に職員を指導し徹底に努めている。	管理者は職員全員に対し身体拘束をしないケアの教育を実施し、正しい理解と共有に努めています。施設の立地条件から玄関の開放は難しい状況下であり、オートロックにしています。しかし、可能な限り努力し、ベランダや周囲の活用を心がけ、見守りを徹底しています。スピーチロックは第三者が聞いて不快と思われる言葉はその場で注意しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政等の通達により其の都度全員に周知、その徹底に努めている。前項回答と同様に指導徹底の結果、本事業所内における拘束及び虐待は皆無である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び関係職員には必要な研修等に参加させその啓蒙に努めている。また、管理者は、他市の市民後見人要請研修を受け、専門的知識をもって職員の教育しているほか、家族の相談等に応じられる体制にあるが今のところ事案はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定、重要事項説明書、契約書等により十分説明し理解のうえ署名捺印を頂いている。問題が生じての解約は惹起していない。また家族懇談会等で日常的な不安や疑問等の解消を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については、其の場面場面で対応している。家族の意見要望等はご家族との懇談会又は面会等来所時に何うよう心がけ、可能な限り要望等に沿うよう努めている。運営推進会議にも家族代表で参加して頂き全般的な意見等を出して頂いている。	家族の要望としては介護に関しては不満は出ていません。利用者の要望については、スタッフ全員の課題として取り組むようにしています。家族の意見要望は、家族との懇談会、家族代表として参加する運営推進会議での発言、または来所時に何うよう心掛け、可能な限り運営に反映しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ミーティング、全体会議等において意見を交換、可能な限り運営や計画に反映し共有化を図っている。また、業務改善提案書により良案を採用し、運営等に生かしている。	定期的なミーティング、全体会議等において意見を交換し、可能な限り計画に反映、共有化を図っています。その他、業務に必要な提案は「業務改善提案書」により良案を採用し、運営に生かしています。職員には自分たちの施設だという考え方で働いてもらいたいと思っています。年一回外部評価の時期に面談を実施しています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に現場において管理者以下の努力、知識技能を見極め給与等に反映させている。勤務割りも可能な限り希望を取り入れ勤務しやすい環境づくりに努めている。職場環境づくりは職員との共同作業、参加型の運営を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のあるべき姿を追求し、必要に応じ部外研修に参加させると共に研修者はその結果を未受講者にフィードバックし相互のスキルアップにつなげている。また、機会教育、月例ミーティング時においてもその時々の問題等を教育周知に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	3年前に立ち上がった逗葉地区グループホーム連絡会において、今年度から幹事を引き受け、簡単な会則、議事録等の整備を図り、今年度も相互研修会を実施、有意義な交流を行った。2年間の幹事役の2年目に向かい更なる交流進展に努めたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昨年来、家族用のアセスメント表を作成し入所決定時に提出して頂きコミュニケーションの向上を図り不安の解消、信頼関係の醸成に努めている。状況により体験入所を実施。入所後の家族からの情報を補足し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談に当たっては、電話相談以外は施設見学を進め、その際運営規定等必要な施設情報を提供。相談の内容によりケースバイケースで他施設の状況等、可能な限り相談に応じ初期の不安払拭をはかり信頼関係の醸成に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、入居者本人が同行された場合は、前項によるほか必要なサービスの種類や提供先等について情報を提供、家族が選びやすいように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護の施設であるが極力個を大切に、可能な範囲で一緒に過ごせる場面作りに努め、食事づくり、洗濯、買い物、催し物等、無理にならない範囲で参加して頂き話をしながら実施。良好な関係医事に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	催し物への招待、面会の奨励等、本人家族の接触機会を設け、コミュニケーションを蜜に、気軽に相談し合える雰囲気づくりをする等、サポートを図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	公共施設の催し物、近隣の買い物、散策（飲食）等、体調を勘案しながら外出をし話題としている。ご家族には外出・外泊を進めると共に、友人知人の面会は面会時間を設けオープン化を図り開かれた施設として信頼関係の醸成に努めている。	公共施設の催し物（文化祭など）、近隣の買い物、飲食等、ご利用者の体調を考慮しながら外出しています。理美容は家族対応で慣れたお店に通っています。理美容は家族対応で慣れたお店に通っています。友人知人の面会はオープンとして、関係維持の支援に努めていますが、面会を求める人によってはキーパーソンに了解を求めてから会ってもらうようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活を重んじつつ共同生活介護の観点から常に関わり合える場面図票に努めている。日常生活における掃除、洗濯、食事の準備等について個人が出来る範囲内で関わりを持たせている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等においてサービスが提供できない状態であっても、退院等が見込まれるようであれば、約2ヶ月までは契約を維持し、それ以降でも可能な限り相談に応じ、関係を大切にしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時における家族記載のアセスメント表や入所後における生活から本人の意向等を把握して、共同生活介護という難しい環境下であるが可能な限り支援をしている。本人の意思確認が困難な場合は個々の課題として職員全員が情報を共有し対応に努めている。	入所の際、意向はセンター方式で記入しています。入浴介助の時など本人から本音が聞ける機会としています。言葉で表現できる方は、本人の言葉そのままを「」つきで業務日誌へ記入しています。業務日誌に記入された本人の意向は、カンファレンスで集約しています。家族の意見・要望は、懇談会等で伺い、可能な限りの支援に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記同様、家族から提供される生活暦（アセスメント表）により情報を提供して頂くほか、可能な限り本人から直接伺い、個々に能力を発揮できる場面づくりに努めている。また介護計画、ミーティング時において情報の共有化を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時のバイタルチェック、問診等により心身の状態を把握し日々の生活が健康的に遅れるよう努めている。また、医療連携体制により看護師の訪問を受け個々の健康状態を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成に当たっては、日々の記録（観察結果）、職員のミーティングによるほか、家族の意見要望等を考慮して作成し状況変化時は即見直しを行いサービス提供に努めている。	計画作成に当たっては、日々の記録、家族の意見希望等の記録を基にして、スタッフとのミーティングにより作成しています。見直しはその人に合わせて標準6ヵ月としていますが、状況が変化した場合には即見直しを実施し、実状に応じた最適なサービス提供をするように努めています。意見を出し合って介護計画に繋がっています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、業務日誌、ミーティング記録等により情報を共有し、計画の見直し、実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応型共同生活介護事業所として、可能な限り柔軟な支援を行っているが、と機能型施設ではないので、自ずとサービス提供には限界があると思料する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前項同様、認知症共同生活介護事業所として、特に協働して取り組むテーマは存在しない。ただし、家族からの要望等があれば協力することはやぶさかではない。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿った支援を実施している。現在は家族の意向で「かかりつけ医」は当施設と契約している青木病院に受診、他病院への入院等は当該病院宛の紹介状をもって医療が受けられるように支援。医療連携体制の範疇でもあり十分機能していると思料する。	本人及びご家族の希望に添った支援に努めています。青木病院にかかっている方が大半であり「かかりつけ医」は青木病院に受診しています。眼科など他病院への通院は、家族が同行するようお願いしています。看護師は青木病院の看護部長が週二回巡回しています。ナースセンターは24時間オンコールの対応になっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制下で、日々看護部長が巡回し（緊急時はナースコール）利用者の状態を把握、職員と相談しながら個々の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携体制下において、入院先は主に青木病院であるが、他病院への受診、入院等は青木病院からの紹介状によりスムーズに行われている。他病院からの退院等も青木病院を経由する等、連携は保たれている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族及び病院医師との話し合いによりケースバイケースで対応している。終末期における介護の事例はないが、それに近い症例は体験済みである。重度化が進む中、終末期における介護については、医療連携の下個々の事案に対処しつつある。	重度化した場合や終末期のあり方について、ホーム、ご家族及び病院医師との3者の話し合いにより、ケースバイケースで対応しています。平成24年7月に医療連携加算をとった時点で、終末期における介護に向けての教育を心がけています。看取り介護に対しての職員のスキルアップに取り組んでいます。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	保健所等で実施される救急法講習会には職員を積極的に参加させ、初動対応の資としている。また連携病院と連絡を密にし初動対応に万全を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設は個室からベランダを通じ直接非難できる設計であり、火災発生時の消化体制もスプリンクラー等の設備も万全である。避難訓練は逗子消防署隊員指導の下年数回にわたり実施している。地域との連携は運営推進会議で検討しているが、高齢者が多い地域での連携は難しい状況である。	災害対策として、建物は、火災報知器を押した瞬間ホームの全てのオートロックが解除され、居室から直接ベランダを通じて避難できる設計となっており、解除されれば車椅子でベランダへ避難できるように対策を講じています。スタッフも年数回に分け訓練を実施し、万全な体勢作りに努めています。東日本大震災以降、備蓄に留意し、現状、ごはん、缶詰、水、ガスコンロを保有しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活暦を把握し、個々にあった言葉掛けをしプライバシーにも配慮している。また個人情報の取り扱いにも注意している。特に言葉掛けについては介護の基本でもあり、職員に対しては常に接遇に基づく介護サービスに徹するよう教育に努めている。	利用者の生活暦を把握し、一人ひとりに合った言葉掛けや対応に配慮し、個々のプライバシーを確保するよう個人情報の取り扱いにも注意を払っています。接遇に対する研修に力を入れ、言葉掛けは介護の基本であり、利用者の人格を尊重したコミュニケーションが取れるように常に心がけています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の範疇で和あるが可能な限り個々に話しかけ、自己決定を促すように努めている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	前項と同様、難しい面もあるが可能な限り個人の希望、ペースに沿った生活支援に心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現利用者、家族から外部美容院等の要望はなく、近隣の美容師の協力を得て施設内で理美容を実施。服装等については本人、家族の希望を取り入れ、季節に配慮しながら支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の健康状態を勘案しながら調理方法、盛り付けに配慮している。本人の手伝える範囲内で職員と協働。食事も職員と一緒に楽しめるよう工夫している。	個人の健康状態を把握しながら調理方法、盛り付け等に配慮しています。本人の出来る範囲内で職員と一緒に手伝い、食事は職員と一緒に食卓を囲み、楽しみながら食っています。食材は病院と同じで、病院の栄養士の指導を受けています。行事食や外食の場合は、利用者の希望を取り入れています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立表に基づき食材の栄養バランスを確保しつつも、利用者の希望により好みの食材を買出し、調理を工夫して喫食、喫食量等は其の都度記録し必要量の確保に努めている。ただし、共同生活介護施設であり常に個々の趣向に合致させることは難しい。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き等を自ら実施できるようサポートして清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録及び観察により個々の排泄パターンを把握して事前の誘導等に努め、オムツ等利用の軽減を図っている。	記録及び観察により、個々の排泄パターンを把握し、事前にトイレ誘導の支援に努めています。現在、昼間は自立している方は、維持出来るよう支援に努めています。職員はさりげない声掛けを実施しています。リハパン、パッド、布パンにパッドの方が3名位あり、トイレ誘導して支援に努めています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士の献立によるほか水分の補充については十分配慮すると共に、排便の記録、観察により便秘の兆候が見られた場合は契約病院看護部長のアドバイスを受け個々の事象に対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	共同生活介護の中では多少その意に反する声掛けはあるが、健康状態、其の日の気分等を考量して希望に沿った楽しい入浴が出来るよう努めている。	週2回以上の入浴は、1対1又は2対1で個々のその日の気分等を考慮しながら本人の希望に添って支援に努めています。職員は、一人ひとりの健康状態を考慮しながら、楽しく入浴して頂けるよう心がけ、支援に努めています。季節のお風呂もゆず、しょうぶ湯、入浴剤等も利用しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	集合住宅で共同生活の場ではあるが、個々の睡眠パターンを把握し、そのリズムを維持できるよう努めている。休憩についても状況に応じ共用場所や個室など希望の場所に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の与薬状態を把握し、処方箋に従い与薬支援を行っている。服薬後の症状変化等その兆候が見られた場合は看護部長のアドバイスを受ける等必要な措置は講じている。また、職員には薬に対する疑問等については青木病院薬剤師とのヒヤリング等を行い安全の確保に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、お誕生会の催し物、日常生活等において個々の特技・知識を生かし活躍できる場面づくりに努めるほか、気分転換の外出、外食など天候や体調を勘案して実施。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の立地条件、共同生活介護、スタッフの配置基準から個々の希望を満たすことは困難であるが、可能な限り希望を募り戸外の散策や買い物に出る機会を多く設けるように努めている。	日々の外出は、可能な限り希望者を募り、戸外の散策や、買い物に出る機会を多く設け、外気に当たる機会を設け、支援しています。才戸坂上の近くの公園などへ散歩で行っています。季節ごとに、菖蒲、つつじ、国際村の花々、ハイランドの桜等を見に行き、お正月は森戸神社へ詣でに行きます。今年が行かれたのは6、7名ほどでした。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状における利用者自身の金銭管理は難しい状況にある。家族の同意を得て小口現金として事務方で管理している。個々に現金出納簿、財布を用意し、外出時はレジの支払いを本人に任せるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎは実施しているが自らの電話はその状況に応じ行っている。季節行事の一環としてクリスマスカード、年賀状などは出すようにサポート、個々の希望があればそれを支援するよう心がけている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は設計の段階から考慮され、快適な居住環境を提供している。共用場所などには必要な設備。物品を配置して季節感を取り入れた花や装飾を施し家庭的な環境づくりに努めている。	生活空間は快適な居住環境を提供できるよう、広く余裕ある配置になっています。共用空間では、必要な設備、物品が配置され、配慮されています。リビングには季節感を取り入れた花や装飾を施し、職員のお手製のものや、家庭的な環境づくりが成されています。掲示物は、利用者の作品や行事の時などの写真などが飾られて会話や話題に繋げています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には廊下スペースに特徴を持たせているほか、食堂や居間を状況にあわせ配置を工夫し場所の確保に努めている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個室で13.5㎡の広さを確保。家具、調度品、生活用品は慣れ親しんだ物を持ち込み、本人や家族の希望により配置して、本人が過ごしやすい環境づくりに努めている。	居室は13.5㎡のゆとりをもった作りで、広く確保され、エアコン、洗面台、スプリンクラーが備品として設置されています。家具、調度品、生活用品は、本人がこれまで慣れ親しんだ馴染みのものを持ち込んで頂き、本人の好みで自由に配置され、居心地良く快適に過せるように環境に配慮されています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計の段階で配慮し完成後はその使い勝手により補完し環境づくりに努めている。個室ドアの配色及び大きな数字に特色を持たせ容易に識別できるようにして、混乱防止に努めている。			

目 標 達 成 計 画

事業所

医療法人社団柏信会
グループホーム「櫻」

作成日

平成26年1月15日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化した利用者の介護と今後の対応	利用者家族の安心感の醸成と利用者の尊厳を求めた介護	本年2／四半期から始動し医療連携体制の充実を図り重度化の介護は無論、終末期に目を向け、利用者家族職員、連携病院の意識を高め連携とPRに努める。	26. 1. 16 ～ 27. 1. 15
2	13	職員の介護技術、知識及び接遇能力の維持向上	終末期ケアが行える職員の育成	計画に基づく研修等への参加現場における機会教育の実施可能な限り優秀な人材の確保	26. 1. 16 ～ 27. 1. 15
			－ 以 下 余 白 －		

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム「櫻」
ユニット名	Bユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員自ら作成した理念の文言に親しみを感じながら、見やすい場所に掲示し日々実践に努めている。地域住民との交流は運営推進会議等を通じ其の実現を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の立地条件、利用者の状態から難しい状況にあるが、可能な限り参加型の交流に努めている。（主に文化祭や近隣のお祭り、盆踊りであるが法人施設間の交流も頻繁に行っている。）事業所自体としては、自治会役員会、社協主催のランチミーティング等に参加、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の結果をホームページで公開するほか逗子ネットの企画に参加し情報提供に努めている。また、運営推進会議を通じ町内の方への認知症に対する講演会を呼びかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価及び外部評価の結果ならびに利用者の現況、運営状況等は議案として取り上げ、貴重な意見は可能な限り取り上げサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務上、必要の都度往来し、市担当者と相談しながらサービスの向上を図っている。運営推進会議には市の担当課長が委員として運営に参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の立地条件及び安全対策の観点から玄関の開放は難しい状況にあるが、可能な限り努力はしている。職員全員に対し拘束についての教育を実施、正しい理解に基づく実践に努めている。前兆を察、その知した場合は其の都度個々に職員を指導し徹底に努めている。		

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政等の通達により其の都度全員に周知、その徹底に努めている。前項回答と同様に指導徹底の結果、本事業所内における拘束及び虐待は皆無である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び関係職員には必要な研修等に参加させその啓蒙に努めている。また、管理者は、他市の市民後見人要請研修を受け、専門的知識をもって職員の教育しているほか、家族の相談等に応じられる体制にあるが今のところ事案はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定、重要事項説明書、契約書等により十分説明し理解のうえ署名捺印を頂いている。問題が生じての解約は惹起していない。また家族懇談会等で日常的な不安や疑問等の解消を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については、其の場面場面で対応している。家族の意見要望等のご家族との懇談会又は面会等来所時に何うよう心がけ、可能な限り要望等に沿うよう努めている。運営推進会議にも家族代表で参加して頂き全般的な意見等を出して頂いている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ミーティング、全体会議等において意見を交換、可能な限り運営や計画に反映し共有化を図っている。また、業務改善提案書により良案を採用し、運営等に生かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に現場において管理者以下の努力、知識技能を見極め給与等に反映させている。勤務割りも可能な限り希望を取り入れ勤務しやすい環境づくりに努めている。職場環境づくりは職員との共同作業、参加型の運営を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のあるべき姿を追求し、必要に応じ部外研修に参加させると共に研修者はその結果を未受講者にフィードバックし相互のスキルアップにつなげている。また、機会教育、月例ミーティング時においてもその時々の問題等を教育周知に努めている。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>3年前に立ち上がった逗葉地区グループホーム連絡会において、今年度から幹事を引き受け、簡単な会則、議事録等の整備を図り、今年度も相互研修会を実施、有意義な交流を行った。2年間の幹事役の2年目に向かい更なる交流進展に努めたい。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>昨年来、家族用のアセスメント表を作成し入所決定時に提出して頂きコミュニケーションの向上を図り不安の解消、信頼関係の醸成に努めている。状況により体験入所を実施。入所後の家族からの情報を補足し対応している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談に当たっては、電話相談以外は施設見学を進め、その際運営規定等必要な施設情報を提供。相談の内容によりケースバイケースで他施設の状況等、可能な限り相談に応じ初期の不安払拭をはかり信頼関係の醸成に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居相談時、入居者本人が同行された場合は、前項によるほか必要なサービスの種類や提供先等について情報を提供、家族が選びやすいように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共同生活介護の施設であるが極力個を大切に、可能な範囲で一緒に過ごせる場面作りに努め、食事づくり、洗濯、買い物、催し物等、無理にならない範囲で参加して頂き話をしながら実施。良好な関係医事に努めている。</p>		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>催し物への招待、面会の奨励等、本人家族の接触機会を設け、コミュニケーションを蜜に、気軽に相談し合える雰囲気づくりをする等、サポートを図っている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	公共施設の催し物、近隣の買い物、散策（飲食）等、体調を勘案しながら外出をし話題としている。ご家族には外出・外泊を進めると共に、友人知人の面会は面会時間を設けオープン化を図り開かれた施設として信頼関係の醸成に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活を重んじつつ共同生活介護の観点から常に関わり合える場面図票に努めている。日常生活における掃除、洗濯、食事の準備等について個人が出来る範囲内で関わりを持たせている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等においてサービスが提供できない状態であっても、退院等が見込まれるようであれば、約2ヶ月までは契約を維持し、それ以降でも可能な限り相談に応じ、関係を大切にしている。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時における家族記載のアセスメント表や入所後における生活から本人の意向等を把握して、共同生活介護という難しい環境下であるが可能な限り支援をしている。本人の意思確認が困難な場合は個々の課題として職員全員が情報を共有し対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記同様、家族から提供される生活暦（アセスメント表）により情報を提供して頂くほか、可能な限り本人から直接伺い、個々に能力を発揮できる場面づくりに努めている。また介護計画、ミーティング時において情報の共有化を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時のバイタルチェック、問診等により心身の状態を把握し日々の生活が健康的に遅れるよう努めている。また、医療連携体制により看護師の訪問を受け個々の健康状態を把握している。		

26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成に当たっては、日々の記録（観察結果）、職員のミーティングによるほか、家族の意見要望等を考慮して作成し状況変化時は即見直しを行いサービス提供に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、業務日誌、ミーティング記録等により情報を共有し、計画の見直し、実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応型共同生活介護事業所として、可能な限り柔軟な支援を行っているが、と機能型施設ではないので、自ずとサービス提供には限界があると思料する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前項同様、認知症共同生活介護事業所として、特に協働して取り組むテーマは存在しない。ただし、家族からの要望等があれば協力することはやぶさかではない。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿った支援を実施している。現在は家族の意向で「かかりつけ医」は当施設と契約している青木病院に受診、他病院への入院等は当該病院宛の紹介状をもって医療が受けられるように支援。医療連携体制の範疇でもあり十分機能していると思料する。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制下で、日々看護部長が巡回し（緊急時はナースコール）利用者の状態を把握、職員と相談しながら個々の健康管理に努めている。		

32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携体制下において、入院先は主に青木病院であるが、他病院への受診、入院等は青木病院からの紹介状によりスムーズに行われている。他病院からの退院等も青木病院を経由する等、連携は保たれている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族及び病院医師との話し合いによりケースバイケースで対応している。終末期における介護の事例はないが、それに近い症例は体験済みである。重度化が進む中、終末期における介護については、医療連携の下個々の事案に対処しつつある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	保健所等で実施される救急法講習会には職員を積極的に参加させ、初動対応の資としている。また連携病院と連絡を密にし初動対応に万全を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設は個室からベランダを通じ直接非難できる設計であり、火災発生時の消化体制もスプリンクラー等の設備も万全である。避難訓練は逗子消防署隊員指導の下年数回にわたり実施している。地域との連携は運営推進会議で検討しているが、高齢者が多い地域での連携は難しい状況である。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活暦を把握し、個々にあった言葉掛けをしプライバシーにも配慮している。また個人情報取り扱いにも注意している。特に言葉掛けについては介護の基本でもあり、職員に対しては常に接遇に基づく介護サービスに徹するよう教育に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の範疇で和あるが可能な限り個々に話しかけ、自己決定を促すように努めている。		

38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	前項と同様、難しい面もあるが可能な限り個人の希望、ペースに沿った生活支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現利用者、家族から外部美容院等の要望はなく、近隣の美容師の協力を得て施設内で理美容を実施。服装等については本人、家族の希望を取り入れ、季節に配慮しながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の健康状態を勘案しながら調理方法、盛り付けに配慮している。本人の手伝える範囲内で職員と協働。食事も職員と一緒に楽しめるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立表に基づき食材の栄養バランスを確保しつつも、利用者の希望により好みの食材を買出し、調理を工夫して喫食、喫食量等は其の都度記録し必要量の確保に努めている。ただし、共同生活介護施設であり常に個々の趣向に合致させることは難しい。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き等を自ら実施できるようサポートして清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録及び観察により個々の排泄パターンを把握して事前の誘導等に努め、オムツ等利用の軽減を図っている。		

44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士の献立によるほか水分の補充については十分配慮すると共に、排便の記録、観察により便秘の兆候が見られた場合は契約病院看護部長のアドバイスを受け個々の事象に対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	共同生活介護の中では多少その意に反する声掛けはあるが、健康状態、其の日の気分等を考量して希望に沿った楽しい入浴が出来るよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	集合住宅で共同生活の場ではあるが、個々の睡眠パターンを把握し、そのリズムを維持できるよう努めている。休憩についても状況に応じ共用場所や個室など希望の場所に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の与薬状態を把握し、処方箋に従い与薬支援を行っている。服薬後の症状変化等その兆候が見られた場合は看護部長のアドバイスを受ける等必要な措置は講じている。また、職員には薬に対する疑問等については青木病院薬剤師とのヒヤリング等を行い安全の確保に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、お誕生会の催し物、日常生活等において個々の特技・知識を生かし活躍できる場面づくりに努めるほか、気分転換の外出、外食など天候や体調を勘案して実施。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の立地条件、共同生活介護、スタッフの配置基準から個々の希望を満たすことは困難であるが、可能な限り希望を募り戸外の散策や買い物に出る機会を多く設けるように努めている。		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現状における利用者自身の金銭管理は難しい状況にある。家族の同意を得て小口現金として事務方で管理している。個々に現金出納簿、財布を用意し、外出時はレジの支払いを本人に任せようとしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族からの電話の取次ぎは実施しているが自らの電話はその状況に応じ行っている。季節行事の一環としてクリスマスカード、年賀状などは出すようにサポート、個々の希望があればそれを支援するよう心がけている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活空間は設計の段階から考慮され、快適な居住環境を提供している。共用場所などには必要な設備。物品を配置して季節感を取り入れた花や装飾を施し家庭的な環境づくりに努めている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間には廊下スペースに特徴を持たせているほか、食堂や居間を状況にあわせ配置を工夫し場所の確保に努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は個室で13.5㎡の広さを確保。家具。調度品、生活用品は慣れ親しんだ物を持ち込み、本人や家族の希望により配置して、本人が過ごしやすい環境づくりに努めている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>設計の段階で配慮し完成後はその使い勝手により補完し環境づくりに努めている。個室ドアの配色及び大きな数字に特色を持たせ容易に識別できるようにして、混乱防止に努めている。</p>		

目 標 達 成 計 画

事業所

医療法人社団柏信会
グループホーム「櫻」

作成日

平成26年1月15日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	33	重度化した利用者の介護 と今後の対応	利用者家族の安心感の 醸成と利用者の尊厳を 求めた介護	本年2／四半期から始動し 医療連携体制の充実を図り 重度化の介護は無論、終末 期に目を向け、利用者家族 職員、連携病院の意識を高 め連携とPRに努める。	26. 1. 16 ～ 27. 1. 15
2	13	職員の介護技術、知識及 び接遇能力の維持向上	終末期ケアが行える職員の 育成	計画に基づく研修等への参加 現場における機会教育の実施 可能な限り優秀な人材の確保	26. 1. 16 ～ 27. 1. 15
			－ 以 下 余 白 －		

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。